

クリニック様紙カルテファイリング事例

◆導入前の課題 患者の増加と共に保管スペースが増加してカルテ庫を圧迫



- 膨大な紙カルテを保管しており、カルテ庫の保管スペースが手狭になってきている。
- 電子カルテを導入しているにもかかわらず、過去の紙カルテや各種検査所見、紹介状など院内で発生する大量の紙文書で、ペーパーレス化には程遠い。
- 職員の中にはPCの操作に不慣れな人も多く、操作が複雑だと職員の採用に支障を来す。

患者数: 22,000人

診療科目:

内科 胃腸科 循環器科
小児科 リハビリ科

◆対策 電子カルテと連携してデジタル文書とスキャン文書を融合

- 過去カルテを電子化して、カルテ庫での保管を無くす
- 閲覧は、患者ごとのバイндаを選択して閲覧
- 電子カルテと連動してバイндаを自動作成
- 院内で発生した文書はスキャンして電子化して保存
- 紙イメージの操作性のため誰でも抵抗感なく使える

電子カルテから患者情報を出力

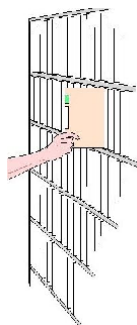
電子カルテシステム



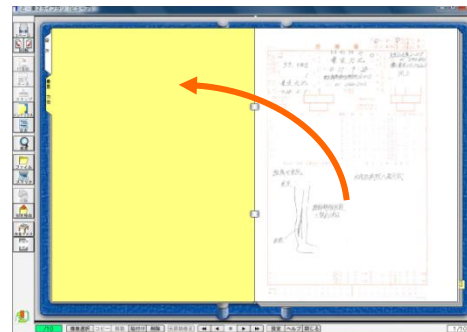
患者情報を元に楽2バイндаを自動生成

楽2 バイнда

紙カルテイメージでばらばら捲って閲覧



過去の紙カルテを
スキャンして電子化



カルテ番号や患者
氏名でカルテを検索

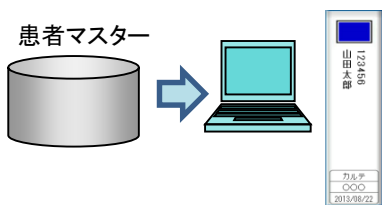


導入から運用までの流れ(事前準備)

◆電子化の準備

事前準備① 楽2ライブラリの空バイндаを自動作成 ➡ 弊社開発のアドオンソフト

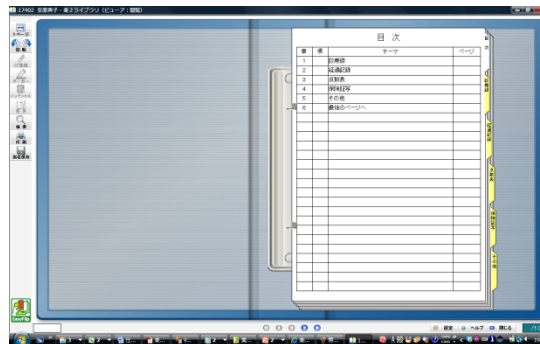
患者マスター(csv形式)を基に、楽2ライブラリの空バイндаを自動で作成します。
バイндаは、1患者1バイндаとします。



バイндаの背表紙には、
患者番号と患者氏名

ラベル色は、男性は青、
女性は赤

受け取る患者マスターのフォーマット
患者番号,患者氏名,性別,生年月日

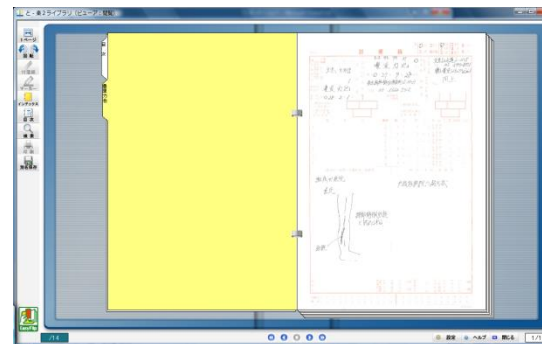
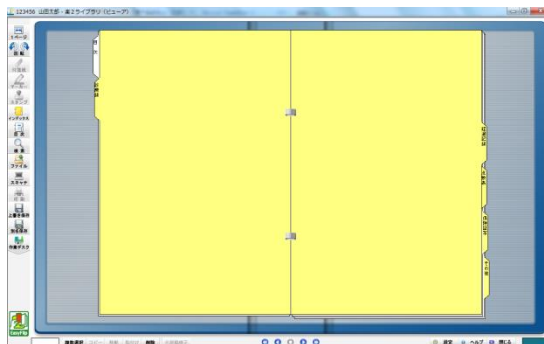
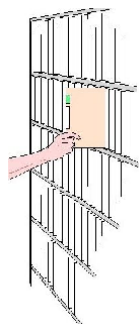


バイндаの中のインデックス(仕切り紙)は、
任意なインデックスを作成できます。

インデックスの例:
診療録、経過記録、点数表、保険証写、
その他

事前準備② 過去の紙カルテをスキャナでスキャンして電子化 ➡ 楽2ライブラリ標準機能

登録したいバイндаを開き、紙カルテをスキャナーから取り込んで電子化します。
スキャン作業は、患者単位で行います。



電子化に当たっては、電子化サービスを行う業者様を紹介させていただくことは可能です。

導入から運用までの流れ(運用)

◆楽2ライブラリでの運用

電子カルテシステムから患者情報を基に、楽2バイндаを自動作成

電子カルテシステム



新患登録時、電子カルテシステムから患者情報を出力して転送

電子カルテシステムから、新患登録情報をcsv形式で指定されたフォルダに転送するため、電子カルテシステムをカスタマイズが必要となります。

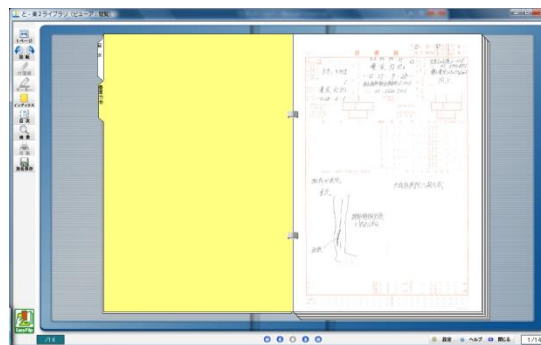
電子カルテシステムのカスタマイズが困難な場合は、この機能を使用することができません。

⇒ 弊社開発のアドオンソフト

患者のバイндаを検索

患者番号、または、患者氏名でバイндаを検索することができます。

⇒ 楽2ライブラリ標準機能



楽2ライブラリ標準機能では、データベースを持っていないため、バイнда数が多くなると検索に時間を要する場合があります。

この問題を解決するため、弊社開発の検索機能で、検索時間を大幅に短縮することができます。

あたかも、紙のカルテをぱらぱら捲るように、直感的に使用することができます。

患者のバイндаに書類を登録

事前準備②と同じ手順で、患者のバイндаを開き、スキャナーからスキャンして登録します。

対象文書

紙カルテ、各種検査所見、各種検査結果のプリントアウトされたデータ、紹介状・その返事、手術・麻酔記録、手入院診療計画書・退院時指導計画書、会報、広報誌、厚労働・医師会通達文書、学会研究資料、学術論文・研修資料、医師・職員情報